

編集後記

1991年12月に創立された当財団は、先月、30周年を迎えました。長きにわたり会員の皆様から多大なご支援ご理解を賜りまして感謝申し上げます。創立以来リリースしてきた会員向けのビジネス情報誌「海外投融資」は、この節目にデザインを一新し、今後も会員の方々のお役に立てる有益な情報を発信してまいります。

さて、今号はグローバル企業のサプライチェーンにフォーカスを当て、ESG、経済安全保障、人権、物流などの観点からチェーンマネジメントで必要となるエッセンスについて有識者に寄稿いただきました。マーケティング、コストや物流の最適化などを目的に始まったサプライチェーンのグローバル化は、米中貿易摩擦、脱炭素やSDGsといった新たな課題に直面し、企業は公器として自社の歴史や特性を踏まえながら、今後の価値観の変化や要望にどう対処していくべきなのか、あらためての整理が求められています。多様な価値観のもとでグローバル展開する企業のチェーンマネジメントがいっそう複雑になり、高度なガバナンスが必要な時代になりました。当財団では、特集記事に関連した企業研修やセミナー（有料）も提供しておりますので、いつでもご相談ください。

常務理事 田丸伸介

海外投融資

Vol.31 No.1 (通巻181号)
2022年1月26日発行

発行
一般財団法人 海外投融資情報財団

発行人
長田 薫
〒102-0073
東京都千代田区九段北二丁目
3番6号 九段北二丁目ビル
TEL. 03-5210-3311 (代)
URL. www.joi.or.jp

制作協力
(株)エディポック

*本誌に掲載されている記事の内容や意見は、海外投融資情報財団の公式見解を示すものではありません。

●禁 無断転載

All rights reserved. No part of this magazine may be reproduced in any form or in any means without written permission from the publisher.
©Japan Institute for Overseas Investment Printed in Japan



九段だより 30年の歴史

当財団は昨年末をもって30周年を迎えました。こうして30年の歴史を重ねることができたのは、会員の皆様のご支援の賜物で、この場をお借りして御礼申し上げます。

30年の節目ということで、当財団が創立された1991年を振り返ってみたいと思います。

まず、時事通信社の発表している1991年の10大ニュースから、国内、海外ベスト3を書き出してみました。

国内：1位「証券・金融不祥事が続発」、2位「雲仙・普賢岳で火砕流」、3位「宮澤内閣発足」

海外：1位「激動のソ連邦が消滅へ」、2位「湾岸戦争ほっ発、イラク敗北」、3位「米ソ、核軍縮発表」

海外のニュースからは、冷戦終結に関連したものなど、歴史のターニングポイントと位置づけられる事件が起きていたことがうかがえます。国内ではベスト3でこそありませんが、第6位に、その後の自衛隊の海外活動の嚆矢となる「掃海艇ベルシャ湾に派遣」がランクインしています。

次に「現代用語の基礎知識 新語・流行語大賞」の年間大賞は、「…じゃあ～りませんか」でした。これは、お笑いタレントのチャーリー浜さんのギャグとのことですが、読者でこれを記憶されている方は少数でしょうか。一方、表現部門で「地球にやさしい」が銀賞を受賞、現代の主要課題であるSDGsのキーワード「持続可能性」に対する意識の胎動を感じます。

経済に目を移すと、1991年のGDP（名目）の第1位は

米国（61,581億ドル）、第2位は日本（36,574億ドル）。現在、世界第2位の経済大国である中国は第9位で4,132億ドル。現在と引き比べてこの数字を見た読者各位の思いはさまざまかと思いますが、この30年の変化を最も強く感じる数字であることは間違いのないでしょう。

こうして振り返ると、30年間を通じた世界の大きな変化を感じざるを得ないわけですが、同時に、激動の30年にわたりわが国の海外投融資が脈々と継続してきた事実、その間における世界各国の現場での各企業様、企業戦士の皆様の奮闘に、敬意とともに思いを致すところです。当財団がそうした奮闘に些かなりともかかわらせていただいたことは、何より私どもJOI役職員の誇りとするところであり、次なる30年も、皆様の海外投融資に、これまで以上に寄り添いお役に立たせていただきたいと決意を新たにします。これからもよろしく願い申し上げます。

専務理事 長田 薫